

中国人日本語学習者の E メールに見られる問題点 －「開始部」と「終了部」を中心に－

于凌越

東北大学文学研究科

yulingyue0423@yahoo.co.jp

1. はじめに

学習者が書いた E メールを読むと、要件の部分は比較的良好に書けていても、要件の前の部分や後の部分で不自然なことがしばしば見られる。本研究では、要件に当たる部分を主要部と呼び、主要部の前に出現する部分は「開始部」、後に出現する部分は「終了部」と呼ぶ。「開始部」と「終了部」は、「主要部」に比べ、メールの目的との関係が薄いものの、目的の達成に重要な役割を担っており、決して周辺的なものではないことが指摘されている（蔡 2005）。本研究では、Eメールの「開始部」と「終了部」における中国人日本語学習者の書き方と、それに対する学習者の意識について明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

メールの「開始部」と「終了部」における各言語の母語話者の使用実態について、日本語母語話者は、「開始部」にあたる部分では相手を配慮したストラテジーを多用し、用件のみではなく、前置きの話題や終わるときにも気をつけることが明らかになっている（李 2004、蔡 2005、大友 2009）。台湾人は、前置きを丁寧な置くより、直接的な依頼行動を行うことが好まれている（李 2004）。中国人は、積極的に相手に近づこうとするポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが使用され、依頼後の行動において相手の承諾を得る前でも「感謝」のストラテジーが使用されている（大友 2009）。

一方、メールの「開始部」と「終了部」における学習者の使用実態については、「開始部」にあたる部分では、学習者のメールには挨拶の言葉があるものの、その後の要件への入り方が唐突であることが指摘されている（由井 2013）。また、宮崎（2007）では、タイ人日本語学習者に関し、日本語母語話者に多用されている「メールへのお詫び」が用いられておらず、「自己紹介」での開示項目も少なかったことを述べている。「終了部」の問題点として、学習者によって、「終了部」があつたりなかったりする。「終了部」があつた場合も、適切な表現が選ばれていない（由井 2013）。タイ人日本語学習者には依頼の承諾を得る前に「感謝」の使用が見られたことを報告している（宮崎 2007）。

以上の研究をまとめてみると、相手と場面によって、用件のみではなく、「開始部」と「終了部」

中国人日本語学習者の E メールに見られている問題点 — 「開始部」と「終了部」を中心に

にいろいろストラテジーを使用しつつ、読み手に受け入れてもらう書き方は、学習者にとって難しく、うまく把握できていないところがあることが明らかになっている。

しかしながら、「開始部」と「終了部」において、正誤以外の点として、なぜ学習者がある形式や表現を使用しているかという意識と実態の関連はまだ明らかになっていない。したがって、本研究は学習者メールの「開始部」と「終了部」における産出の実態を調べるとともに、学習者の意識を調査し、実態と意識との関連を明確することを試みる。

3. 調査概要

調査は 2013 年 12 月中旬から 2014 年 1 月中旬にかけて 10 名の中国人日本語学習者を対象に行った。「親しい先生に質問する」「親しくない先生に質問する」「親しい同級生に資料チェックのお願いをする」「親しい先生に資料チェックのお願いをする」という四つの場面を設定し、設定した場面ごとに、学習者に E メールを書かせた。その後、フォローアップインタビュー (FUI) を実施した。FUI を行うとき、学習経歴、普段受け取って E メールについて、学習環境などについて問う質問紙を学習者に回答させた。回収した E メールは、日本語母語話者に適切かどうかを判定してもらい、適切ではないと判定した際は、その理由を聞いた。

4. 結果と考察

4.1 「開始部」と「終了部」における問題点

メール 40 件を回収し、判定者の意見を基に、データを「名乗りなし」、「定型文が間違っている」、「順番が間違っている」、「相手との関係を正しく認識していない」、「答えることを前提にする」という 5 種類に分類した。各分類に該当する文数及び人数を表 4.1 に示す。

表 4.1 分類ごとの文数、人数

分類	文数 (文)	人数 (人)
A 名乗りなし	10	5
B 定型文が間違っている	5	2
C 順番が間違っている	2	2
D 相手との関係を正しく認識していない	4	3
E 答えることを前提にする	6	3

(1) 「名乗りなし」について

A について、40 件メールの内に、10 件のメールは「名乗りなし」であった。A に関し、判定者

は親しい同級生宛てのメール 10 件を「名乗りなし」でも許容できると判断したが、残りの 30 件のメールについては名乗るべきと判断した。目上の人にメールを送る時、名乗るべきである一方、学習者が名乗らなかった理由について、学習者は「件名と最後の署名で名前を書いた」「自分の先生は自分のことが知っているから」「単刀直入で言った方がいい」といった理由で名乗らなかった。従って、学習者は日本語で E メールを書くとき、受け手側における基本ルールを知らない可能性がある。

(2) 「定型文が間違っている」について

B について、「勝手に先生にメールを送りまして、申し訳ないんです」や「先生は毎日忙しいことを知っていますけど、メールを送りました」などの文が見られた。FUI で学習者に確認したところ、「突然のメールで失礼いたします」や「お忙しいところ失礼いたします」などを書きたなかったことが分かった。また、FUI では、「同じ意味だったら大丈夫」という意識があることが確認された。つまり、学習者は「開始部」と「終了部」を十分重視しておらず、定型表現を正確に記憶せずに、間違った記憶のまま使ってしまうことが示唆される。

(3) 「順番が間違っている」について

判定者が順番を直した方がいいと判断した (C) について、一つは「アドレスはホームページから分かった」という文を終了部で書き、もう一つは「以上です」という文の後にも文章を書いているものの二種類が見られた。使った理由としては、「本文だったら注意する」、「順番気にしていない」と FUI で述べていた。このことから、学習者が順番を意識しないことによって、相手に違和感を与えてしまうことが考えられる。

(4) 「相手との関係を正しく認識していない」について

D について、先生宛ての E メールが判定者に「ポジティブ過ぎる」と判定されたものがある一方、友達宛ての E メールが判定者に「丁寧過ぎる」と判断されたものもある。FUI では、「本当に助けてもらいたいから」「お願いだったら、丁寧に書くべき」などの意識が見られた。つまり、相手と自分の関係より「依頼」という行動への認識が学習者の待遇表現選択の基準になっている。

(5) 「答えることを前提にする」について

E について、三人の内、二人は相手の承諾を得る前に「ありがとう」あるいは「ありがとうございます」を使っていた。もう一人は、親しくない先生に質問するという場面で「答えを楽しみにしております」を書いていた。FUI では、相手が助けてくれなくても、礼を言うことは当然であるという意識が表れている。このことは大友 (2009) においても指摘されており、中国語では依頼後の行動で相手の承諾を得る前でも「感謝」のストラテジーが使用されることが述べられている。よって、学習者はメールを書く時、母語の影響を受けている可能性がある。

4.2 学習者がよく使用したストラテジー

中国人日本語学習者の E メールに見られている問題点 — 「開始部」と「終了部」を中心に

うまく E メールを書くために、学習者はいろいろなストラテジーを使用している。FUI で、「メールを書くとき、分からなかったら、どうしますか」という質問に対して、10 人の内、9 人が「インターネットで調べる」あるいは「昔が書いたメールを参考する」と回答した。今回の調査データから見ると、学習者が使用したストラテジーは適切な E メールを産出することに効果的に働かなかったと言えよう。また、「インターネットで調べる」あるいは「昔に書いたメールを参考にする」という手段は、多くの情報が手に入る手段である。FUI でも「どういう基準で、調べたものは正しいと判断するのか」という質問に対して、9 人とも「なんとなく判断した」という回答が見られた。このことから、学習者は E メールを書いて、分からない時、いろいろ調べているが、得られた情報のなになが適切であるかと判断する能力についてはまだ不十分だと考えられる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、中国人日本語学習者の E メールにおける「開始部」と「終了部」の産出実態を調査し、学習者は「名乗りなし」「定型文が間違っている」「順番が間違っている」「相手との関係を正しく認識していない」「答えることを前提にする」という点で問題があることが分かった。各問題に関連している学習者の意識も一部明らかにした。また、学習者は E メールを書く上で、「インターネットで調べる」、「昔のメールを参考にする」などのストラテジーをよく使用しているが、情報の適否を判断する能力がまだ不十分である可能性があることが分かった。しかし、今回の研究で回収したデータはごく限られているものでしかなく、学習者レベル間での比較も行っていない。研究方法の検討を含め、今後の課題としたい。

参考文献

- 宮崎玲子 (2007) 「電子メールにおける依頼の展開構造—日本語母語話者とタイ人日本語学習者の対照研究」『日本語・日本文化研究』17, 大阪外国語大学日本語講座, pp. 175-184.
- 大友沙樹 (2009) 「電子メールにおける依頼のストラテジー—日中対照の観点から—」『国際文化研究』15, 東北大学国際文化学会, pp. 61-72
- 李佳盈 (2004) 「電子メールにおける依頼行動 : 依頼行動の展開と依頼ストラテジーの台日対照研究 (第 28 回 日本言語文化学会 発表要旨)」『言語文化と日本語教育』28, pp. 99-102
- 蔡胤柱 (2005) 「日本語母語話者の E メールにおける「断り」—『待遇コミュニケーション』の観点から—」『早稲田大学日本語教育研究』7, pp. 95-108
- 由井紀久子 (2013) 「学習者から見たメールの構成 : 談話構成と学習者の認識」『日本語の談話とプロフィール シェンシー』パネル予稿集, 日本語プロフィール研究会特別シンポジウム, キャンパスプラザ京都, 6 月 29 日.